

3) 校地校舎等の施設とその他の学生の教育研究環境

4. 校地校舎等の施設とその他の学生の教育研究環境

(a) 校地、運動場の整備

本学では、建学の精神に基づき、心身ともに健康で健全な学生の育成を目指している

本学は、十勝平野のほぼ中央に位置し、自然環境、景観等についても十分に豊かな教育環境を有しており、こうした豊かな自然環境も学生の教育環境として活用していくことに取り組んでいる。

屋外運動用地は 18,171 m²を有し、休み時間（授業空き時間）、サークル活動、体育祭等で積極的に使用している。また、平成 30 年度より認定こども園帯広大谷短期大学附属音更大谷幼稚園が本学敷地内に移転した。

校舎前庭に 604.23 m²のパーゴラのある休憩施設を整備しており、昼食時には、学生が利用している。体育館については、1,180 m²の広さを持ち、放課後のサークル使用はもちろんのこと、休み時間にも頻繁に使用されている。また、平成 21 年からは、隣接地に畑地 3000 m²を借り受け、学生（サークル・蘭華農園）と地域住民とが協働で畑作にチャレンジしている。こうした取り組みは、単に農作業通じた仕事の大変さの理解に留まらず、食育や命をはぐくむことを考え、さらには地域とのつながりを様々なかたちで体験できる場となっている。たとえば、収穫物は地域のイベント時に提供したり、また、栽培過程で近隣の幼稚園等と連携し、子どもたちに食育や農に触れ合う機会を提供している。

これらは、地域貢献型のコミュニティカレッジを目指す本学の方針のみならず、学生の希望や夢の実現の支援をするという方針の具体化の一環である。今後とも地域社会と連携しながら施設、整備を進めていく。

(b) 校舎等施設の整備

教員の研究室については、専任教員の研究環境確保のために、原則として、一人一研究室を配置している。現在、広さ 20~26.8 m²の研究室を 19 室備えている。教室は、講義室 13 室、実習室 10 室、コンピュータ室 2 室、その他に器楽練習室、講堂、図書館、礼法室、保健室・学生相談室を備える。本学は、2020（令和 2）年度現在、地域教養学科（40 名）、生活科学科（40 名）、社会福祉科子ども福祉専攻（70 名）、社会福祉科介護福祉専攻（30 名）の 3 学科、総収容定員 360 名である。2010（平成 22）年に、本学創立 50 周年を迎えたことを期に学内の学習・生活環境の整備に取り組んできた。当該学科に関わる部分のみを記載すると、コンピュータ室を 2 室（30 名×2）に増室し、地元出身の評論家である草森紳一氏の記念資料室の設置、図書館の整備拡充、学生ホールのリニューアルなどである。なお、草森紳一記念資料室には、教室を整備して当てたが、その所蔵書籍を収納することは不可能であるため、本学が立地する音更町の廃校（小学校）を所蔵施設として利用させていただき、学生ボランティアと担当教員が定期的にその整理に当たっている。こうした地域の協力（廃校利用等）が得られた背景には、これまでの本学、そして当該学科の目指すところの一つである地域連携への取り組みがあったことを付言しておく。具体的には、10 年を超える生涯学習講座の展開やその他さまざまな場面での地域貢献活動（ボランティア等）を通じて本学が当地域で培ってきた信頼関係、その成果の一つとして結実した音更町と結んだ包括連携協定の締結などである。

2013（平成 25）年度から 2017（平成 29）年度にかけて文部科学省の「私立大学等教育研究活性化設備整備費補助金」、「私立学校施設設備整備補助金」及び本学経費により学生用講義机、椅子、電子教卓システム、電動スクリーン、音声映像装置（液晶プロジェクター）、iPad、教員のパソコン、講義収録システム、電子黒板、遠隔講義システムの導入並びに学内 LAN 光ケーブルの敷設を行い教育環境の整備を行ってきた。また、2016（平成 28）年度には老朽化したデジタルピアノの更新を行った。2017（平成 30）年度には校舎照明器具 LED 化を 3 年計画で進めている。今後も、時代の求める教育環境の整備に取り組んでいきたい。

(c) 図書館等の資料及び図書館の整備

図書館は、和漢書 92,492 冊、洋書 1,183 冊の計 93,675 冊（2020（令和 2）年 5 月 1 日現在）を所蔵している。また、学術雑誌 2,312 誌（うち洋雑誌 24 誌）、視聴覚資料 1,894 点を有している。学生および教員の調査・研究を支援するため、書誌データの整備や図書館利用学習の推進に力を入れている。

328 m²に閲覧席 40 席、視聴コーナー 3 席、検索コーナー 3 席を擁するほか、40.12 m²の図書館分庫（開学 50 周年事業として整備）を備えている。分庫を整備したことで書籍等の収納スペースは十分に確保することができた。ただし書籍等は年々増加していくため、今後も蔵書管理について長期的に見直していく予定である。

学術雑誌に関しては、『日本近代文学』や『初等教育資料』など、各学科のカリキュラムに関連するものを多数購読している。2017（平成 29）年度には、電子書籍なども提供できるよう環境を整備した。今後も利用者ニーズの動向に鑑み、コンテンツの充実を図っていく予定である。

また、本学の学術成果物を、冊子体での発行に加え、科学技術情報発信・流通総合システム J-STAGE で広く公開している。地域社会の創造的発展へ寄与するため、引き続き発信していきたい。

学生による図書館ボランティアサークルが、音更町図書館での読み聞かせや各種イベントへ参加するなど精力的に活動している。よりよい図書館環境の整備に向けて、図書館司書が学生とともにさまざまな取り組みを行っている。